

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第2節_地域医療体制の充実
施策名	3-在宅医療の推進

施策の内容	目指す姿	安心できる地域医療体制が確立され、町民の生命や健康が守られています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民の安心できる子育て環境の実現に向け、小児初期救急の365日体制の実現を図ります。 ● 医師不足及び救急や休日当番の報酬の不足が課題となっていることから、医師の確保、財政的支援の見直しなどを検討します。 ● 医療機関と介護事業所等との多職種の連携にあたっては、専門職種での情報共有が重要であることから、さらなる連携を推進します。 ● 今後増加が見込まれる高齢者及び要介護者が、住み慣れた地域で安心して住み続けることができるよう、引き続き、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進します。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	43,398	39,394	22,749	0	7,583	9,062

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、在宅医療・介護の分野で活躍している方を講師に招き、在宅医療に関する講座を2回開催するため準備したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から1回を開催中止とした。 ・医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進するための協議会において、地域資源の把握と課題の抽出を行った。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、さらなる高齢化の進展が予想され、要介護認定者数の急激な増加が見込まれる。医療・介護サービスのあり方は、施設に依存した医療・介護サービスから住み慣れた我が家で医療と介護、予防、生活支援、住まいに関する取組みを包括的かつ継続的に対応できる地域包括ケアシステムの整備された社会環境に向けて、その取り組みが加速化している。
	住民ニーズの変化について	高齢化の進展、生活環境などの変化に伴い、ニーズが多様化している。
	展開した事業は適切であったか	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため講座1回を中止とした。開催予定であった講座については、次年度の開催とする。
	施策を達成するうえでの障害について	在宅医療に関わる多職種(医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、介護士など)間の情報は、その職種毎に個別管理されており連携が課題となっている。また、地域住民に対する、在宅医療介護の普及啓発・理解促進に繋がる効果的な方法が今後の課題となっている。

次年度以降における施策の具体的な方向性	高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が実現できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を目指す。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	医療機関と介護関係者と連携を図りつつ、地域住民に対し、医療と介護サービスについて情報提供を行った。
----------------------	---

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第3節_ともに支え合う地域福祉の充実
施策名	1-安心して暮らせる仕組みづくり

施策の内容	目指す姿	ともに支え合い、人がつながり、交わりのある地域づくりが進められています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員・児童委員が欠員となっている地区もあり、地域における福祉活動の担い手の育成・確保を行う必要があります。 ● 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域懇談会を行っていますが、行政区すべてでの開催が必要であるため、全地区での展開に努めます。 ● 地域課題を地域で考えるよう住民の意識改革を進め、人材育成や支援の強化を図ることにより、子ども、障がい者、高齢者、外国人など、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指します。 ● 今後も、低廉な家賃で安心・安全に居住できる住宅を提供するため、町営住宅の長寿命化計画を推進します。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,069	252	110	0	74	68

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を担う社会福祉協議会とともに、地域を中心とした支え合い、助け合いの仕組みづくりを進めている。 ・いな見守りONETeam事業として、①見守りシールの無料交付、②GPS機器の初期導入経費の補助、③福祉課公式LINEを活用しての行方不明者の捜索体制構築、④事業者と連携し異変を早期に発見する伊奈町見守りオレンジネットワーク事業を一体的に実施し、高齢者等の見守り支援体制の充実を図っている。 	

施策を取り巻く環境の変化について	・社会の変化や少子高齢化、家族形態の多様化により、家庭や地域の支え合う力が弱まってきた。
住民ニーズの変化について	・個々が抱える問題が複雑化しており、家族を含め他者との関わりを避ける無縁社会などから、問題の解決に時間が必要となっている。
展開した事業は適切であったか	・地域が「支え合い」や「助け合い」を考える機会を設けたことにより、地域にあった交流や事業を展開するようになってきている。
施策を達成するうえでの障害について	・行政によるサービスだけでは、きめ細やかな対応は難しいのが現状である。社会の変化や家族形態の多様化が進む中、周囲との関わりを持ちたがらない人もおり、住民どうしの繋がりや互いに支え合う力が弱くなっている状況である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	・引き続き、社会福祉協議会と連携し、地域福祉の活性化に取り組みたい。
---------------------	------------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・それぞれの家庭状況や地域の特性を生かした見守り体制を確立するため、伊奈町地域福祉計画に基づき、町の現状と課題を洗い出し、安心・安全なまちづくりの仕組みづくりに向け、問題解決に取り組んだ。
----------------------	--

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第4節_高齢者サービスの充実
施策名	1-地域包括ケアシステムの構築

施策の内容	目指す姿	高齢者が生きがいを持って活躍している一方、支援が必要な高齢者も、住み慣れた家庭や地域で安心した暮らしが営まれています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症サポーター養成講座の受講者数は増加傾向にありますが、学んだことを生かす機会が少ない現状であることから、地域で活動できる機会の拡充に努めます。 ● ロコジ体操のサポーターを養成し、地域での活動が始まっていますが、さらにロコジ体操を広めていくために、幅広い世代のサポーターの養成に取組みます。 ● 就労支援については、シルバー人材センターへの登録者が頭打ちとなっていることや仕事の場の開拓・登録が少ないこと、高齢者の能力と仕事内容のマッチングができていないことなどが課題となっていることから、関係機関と連携し、支援の強化を図ります。 ● フレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)対策や予防医療を充実し、健康寿命の延伸に努めます。 ● 高齢者の社会参加の機会として、ボランティアや老人クラブが地域ごとにありますが、加入者が増えていない状況であることから、高齢者のニーズに対応した活躍の場の提供に努めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	41,743	37,949	21,915	0	7,305	8,729

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	包括的支援事業を地域包括支援センターに委託し、地域包括ケアシステムの実現に向けた取組みが出来た。また、伊奈町南部地域包括支援センターの令和4年4月1日開設準備を行った。 ・在宅医療・介護連携を推進するため、医療・介護関係者の多職種による研修を実施し意見交換を行い、それぞれの理解と協力を図った。また、地域ケア会議では、ケアマネジメントの支援を行った。 ・生活支援体制の整備を推進するため生活支援コーディネーターを中心に生活支援の取り組みを進めることができた。 ・認知症初期集中支援チームの活動により、認知症の方への早期対応を行い、医療や介護サービスへ繋ぐことができた。		

施策を取り巻く環境の変化について	団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、さらなる高齢化の進展が予想され、要介護認定者数の急激な増加が見込まれる。 医療・介護サービスのあり方は、施設に依存した医療・介護サービスから住み慣れた我が家で医療と介護、予防、生活支援、住まいに関する取組みを包括的かつ継続的に対応できる地域包括ケアシステムの整備された社会環境に向けて、その取り組みが加速化している。
施策実現のための課題	高齢化の進展、生活環境などの変化に伴い、ニーズが多様化している。 ・在宅医療・介護連携では、多職種による研修で意見交換を行い、顔の見える関係作りができた。 ・生活支援体制整備では、生活支援コーディネーターの活動により、地域の担い手や、居場所づくりなど共生を目指した地域づくりに繋ぐことが出来た。 ・認知症初期集中支援チームの活動により、医療や介護サービス利用に繋ぐことができた。
施策を達成するうえでの障害について	高齢化の進展により、要介護認定者等の急激な増加に対応するため、医療・介護サービス・生活支援等の連携体制を構築する必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が実現できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を目指す。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	伊奈町南部地域包括支援センターを令和4年4月1日開設する準備を整えることが出来た。
----------------------	---

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第4節_高齢者サービスの充実
施策名	2-介護予防と生活支援サービスの充実

施策の内容	目指す姿	高齢者が生きがいを持って活躍している一方、支援が必要な高齢者も、住み慣れた家庭や地域で安心した暮らしが営まれています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症サポーター養成講座の受講者数は増加傾向にありますが、学んだことを生かす機会が少ない現状であることから、地域で活動できる機会の拡充に努めます。 ● ロコソング体操のサポーターを養成し、地域での活動が始まっていますが、さらにロコソング体操を広めていくために、幅広い世代のサポーターの養成に取組みます。 ● 就労支援については、シルバー人材センターへの登録者が頭打ちとなっていることや仕事の場の開拓・登録が少ないこと、高齢者の能力と仕事内容のマッチングができていないことなどが課題となっていることから、関係機関と連携し、支援の強化を図ります。 ● フレイル(加齢により心身が古い衰えた状態)対策や予防医療を充実し、健康寿命の延伸に努めます。 ● 高齢者の社会参加の機会として、ボランティアや老人クラブが地域ごとにありますが、加入者が増えていない状況であることから、高齢者のニーズに対応した活躍の場の提供に努めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	介護予防事業の参加者数	4,050人
(2)	認知症サポーター養成講座受講者数	5,700人	
(3)			
(4)			

成果指標の推移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	340人	422人		
(2)	3,495人	3,565人			
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	76,865	76,462	23,058	0	26,722	26,682

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・単身高齢者等に対し緊急通報システムの設置事業を行い、在宅高齢者の不安を軽減させるとともに、低所得の利用者に対しシステム使用料の補助を行った。ねたきり及び重度の認知症である高齢者と、その介護者に対して手当を支給し、経済的な支援を行った。 ・地域共生社会の実現に向け、高齢者自らも担い手になれ、すべての地域住民が気軽に交流するために集まれる場所を地域の住民が自主的に運営している。 ・配食サービスを2業者に委託し、利用の促進を図った。また、介護者を対象に講演会や交流会を開催し介護者のリフレッシュを図った。なお、介護予防体操のサポーターを養成し、町主催の介護予防体操教室以外で、サポーター自身がリーダーとなり、地域にもどり介護予防体操を実施している。(5か所) 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、さらなる高齢化の進展が予想され、要介護認定者数の急激な増加が見込まれる。 ・家族形態の多様化により、地域には単身高齢者や日中独居の方、高齢者夫婦のみの世帯が増加しているが、元気な高齢者も多く存在する。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展、生活環境などの変化に伴い、ニーズが多様化している。 ・1人であることへの不安や、キーパーソンが不在などの高齢者が増加しており、制度に対するニーズは年々増加し、多様化している。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・配食サービスの利用が増え、見守りの機会に繋がった。また、介護者同士の交流による不安軽減や地域でのサポーターの自主的な活動に繋がった。 ・高齢者が住み慣れた地域で生活できるように、在宅医療と介護サービスの連携、生活支援体制の整備、認知症の総合支援など地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めることができ、在宅高齢者の不安を軽減させることができた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定者等の急激な増加に対応するため、医療・介護サービス・生活支援等の連携体制を構築する必要がある。 ・高齢者の理解度に個人差や地域共生社会に対応する理解度が低いこと、さらなる啓発が必要である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や町HPIによる積極的な周知を図り、福祉の充実と健康長寿のまちづくりを進める。 ・高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を実現できるよう、引き続き各事業を実施し、医療・介護・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を目指す。
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防体操のサポーターが自主的に地域の担い手となる活動に繋がった。 ・介護予防事業を実施し、高齢者が介護状態にならず元気に暮らしていけるよう安心安全なまちづくりを推進する。 ・介護者が社会的に孤立をしないよう、様々なサービス情報を随時発見することにより、家族介護者への支援を行う。
----------------------	--

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第4節_高齢者サービスの充実
施策名	3-生きがい対策への支援

施策の内容	目指す姿	高齢者が生きがいを持って活躍している一方、支援が必要な高齢者も、住み慣れた家庭や地域で安心した暮らしが営まれています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症サポーター養成講座の受講者数は増加傾向にありますが、学んだことを生かす機会が少ない現状であることから、地域で活動できる機会の拡充に努めます。 ● ロコラジ体操のサポーターを養成し、地域での活動が始まっていますが、さらにロコラジ体操を広めていくために、幅広い世代のサポーターの養成に取組みます。 ● 就労支援については、シルバー人材センターへの登録者が頭打ちとなっていることや仕事の場の開拓・登録が少ないこと、高齢者の能力と仕事内容のマッチングができていないことなどが課題となっていることから、関係機関と連携し、支援の強化を図ります。 ● フレイル(加齢により心身が古い衰えた状態)対策や予防医療を充実し、健康寿命の延伸に努めます。 ● 高齢者の社会参加の機会として、ボランティアや老人クラブが地域ごとにありますが、加入者が増えていない状況であることから、高齢者のニーズに対応した活躍の場の提供に努めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	49,149	44,867	278	0	0	44,589

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加と生きがいづくりを支援するため、シルバー人材センターや長寿クラブに対して補助金を支給した。 ・長寿を祝福するための敬老会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策に考慮し中止とした。 ・敬老祝金を支給した。 ・地区敬老会が7地区で開催された。 	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・年々高齢化が進んでいる。 ・趣味や運動など高齢者が活躍できる場面が多くなってきている反面、長寿クラブへの加入者は年々減少している。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者自身や家族、友人関係の変化に伴い、以前に比べ家庭内外での役割や居場所も変化している。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがいや社会参加の機会はあるが、参加・交流は増えていない。 ・招待者を白寿・米寿・金婚の方に限定した敬老会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ・コロナ禍であったが、地区敬老会を7地区で感染対策を行いながら開催した。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老事業の対象者は年々増加。地域共生社会の実現のため、地区敬老会への移行に向け、各区への協力依頼、補助制度を見直していく必要がある。 ・高齢者の社会参加に対する意識は高いと思われるが、地域でそれを受け入れる場が少ない。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の能力を活かした就業の場やサロン活動など、広報や町HPIによる積極的な周知をするとともに、高齢者が参加しやすい活動の場を増やす。 ・各区の状況を踏まえながら、地区敬老会への移行を目指す。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に集うことができるサロンの開設や周知を行い、生きがい対策への支援を実施するとともに、協働のまちづくりを進める。
----------------------	--

令和3年度 行政評価表

担当課	いきいき長寿課
章名	第2章_いきいき_元気_健康長寿のまち
節名	第6節_社会保障の充実
施策名	3-介護保険事業の円滑な運営

施策の内容	目指す姿	様々な支援制度により、支援を必要とする人の暮らしが守られています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定健診の受診率は県内でも上位となっていますが、保健指導の実施率については県内平均を大きく下回っていることから、保健指導の実施方法などについて見直しを図ります。 ● レセプト点検を民間委託に切り替えましたが、引き続き効果率の向上に取組みます。 ● 質の高い介護サービスの安定的な供給には、それを支える介護人材の確保が大きな課題となっていることから、働き方・労働状況の改善等、働きやすい環境整備や人材の育成・確保など、支援について検討します。 ● 生活困窮者からの相談件数は増加傾向にあり、また、生活困窮の問題は、引きこもり、障がい者がいる家庭、高齢化など複合的な問題を抱えているケースもあることから、包括的な支援体制を構築します。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,430,607	2,419,359	778,628	0	946,335	694,396

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		高齢化の進展により、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、介護保険制度の各種事業を適正に実施することができた。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、さらなる高齢化の進展が予想され、要介護認定者数の急激な増加が見込まれる。医療・介護サービスのあり方は、施設に依存した医療・介護サービスから住み慣れた我が家で医療と介護、予防、生活支援、住まいに関する取組みを包括的かつ継続的に対応できる地域包括ケアシステムの整備された社会環境に向けて、その取組みが加速化している。
	住民ニーズの変化について	高齢化の進展、生活環境などの変化に伴い、ニーズが多様化している。
	展開した事業は適切であったか	高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、在宅医療と介護サービスの連携、生活支援体制の整備、認知症の総合支援など地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みを進めることができた。
	施策を達成するうえでの障害について	要介護認定者等の急激な増加に対応するため、必要とされるサービスの内容・見込量医療・介護サービス・生活支援等の連携体制を構築する必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を実現できるよう、引き続き各事業を実施し、高齢者を地域全体で支え合う地域包括ケアシステムの構築を目指す。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	町のホームページやパンフレット等で介護保険制度について理解を深めるため、情報発信を行った。
----------------------	---